

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 19 年 3 月 8 日 (2007.3.8)

【公表番号】特表 2006-517562(P2006-517562A)

【公表日】平成 18 年 7 月 27 日 (2006.7.27)

【年通号数】公開・登録公報 2006-029

【出願番号】特願 2006-501817(P2006-501817)

【国際特許分類】

C 0 7 D 213/22 (2006.01)

A 6 1 K 31/444 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 P 29/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/28 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 17/06 (2006.01)

A 6 1 P 17/02 (2006.01)

A 6 1 P 15/06 (2006.01)

A 6 1 P 11/06 (2006.01)

A 6 1 P 11/00 (2006.01)

【F I】

C 0 7 D 213/22 C S P

A 6 1 K 31/444

A 6 1 P 43/00 1 1 1

A 6 1 P 29/00

A 6 1 P 25/28

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 17/06

A 6 1 P 17/02

A 6 1 P 15/06

A 6 1 P 11/06

A 6 1 P 11/00

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 1 月 19 日 (2007.1.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

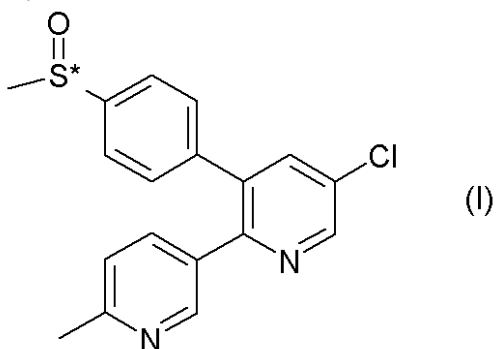
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

医薬品として使用するための、二つの異なる鏡像異性体のいずれかの形における式 (I) :

【化 1】



の化合物もしくはその薬学的に許容される塩および N - オキシドまたはそれらの任意の混合物。

【請求項 2】

遊離塩基の形である、請求項 1 に記載の化合物。

【請求項 3】

(R) - 5 - クロロ - 6' - メチル - 3 - [4 - (メチルスルフィニル)フェニル] - 2,3' - ビピリジン

(S) - 5 - クロロ - 6' - メチル - 3 - [4 - (メチルスルフィニル)フェニル] - 2,3' - ビピリジン

の一つである、式 (I) に記載の化合物。

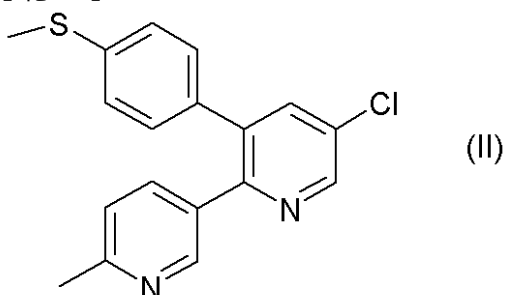
【請求項 4】

酵素シクロオキシゲナーゼ - 2 (COX - 2) の阻害による寛解に感受性の病理学的症状もしくは疾患の処置における使用のための請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項に記載の化合物。

【請求項 5】

式 (II)

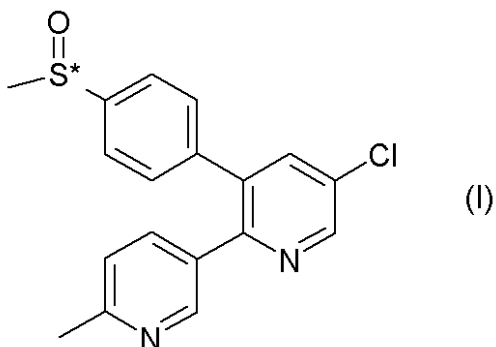
【化 2】



の化合物を酸化剤と反応させる、

請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項に定義された二つの異なる鏡像異性体のいずれかの形における式 (I)

【化 3】



の化合物もしくはその塩および N - オキシドの作成方法。

【請求項 6】

酸化剤が：

(a) ラセミのスルホキシド混合物を得ようとするときにはメタ過ヨウ素酸ナトリウム；または、

(b) 鏡像異性的に富化した式(I)の化合物を得ることが望まれるときにはチタニウム テトライソプロポキシド、t - ブチル ヒドロペルオキシドおよび酒石酸ジエチルの(R,R)のもしくは(S,S)の型のどちらかの混合物；

のいずれかである、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 7】

反応が塩素化溶媒もしくは塩素化溶媒およびC₁ - C₄ アルコールの混合物の中で起こる、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 8】

塩素化溶媒が1,2 - ジクロロエタン、塩化メチレン、クロロホルムおよびそれらの混合物から選択される、請求項 7 に記載の方法。

【請求項 9】

薬学的に許容される希釈剤もしくは担体と組み合わせた、請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項に記載の化合物を含む医薬組成物。

【請求項 10】

酵素シクロオキシゲナーゼ - 2 (COX - 2) の阻害による寛解に感受性の病理学的症状もしくは疾患の処置のための医薬品の製造における、請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 項に記載の化合物の使用。

【請求項 11】

医薬品が疼痛、発熱もしくは炎症の処置における使用のための、プロスタノイド誘発性平滑筋収縮を阻害するためのまたは結腸直腸癌もしくは神経変性疾患の予防または処置のためのものである、請求項 10 に記載の使用。

【請求項 12】

酵素シクロオキシゲナーゼ - 2 (COX - 2) の阻害による寛解に感受性の病理学的症状もしくは疾患の処置のための請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 項に記載の化合物の使用。

【請求項 13】

病理学的症状または疾患が疼痛、発熱、炎症、プロスタノイド誘発性平滑筋収縮、結腸直腸癌もしくは神経変性疾患である、請求項 12 に記載の使用。

【請求項 14】

酵素シクロオキシゲナーゼ - 2 (COX - 2) の阻害による寛解に感受性の病理学的症状もしくは疾患に罹っている対象を処置する方法であって、その方法が当該対象に請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 項に記載の化合物の有効量を投与することを含む、方法。

【請求項 15】

病理学的症状または疾患が疼痛、発熱もしくは炎症、プロスタノイド誘発性平滑筋収縮、結腸直腸癌もしくは神経変性疾患である、請求項 14 に記載の方法。